

令和2年度  
(2020)

# 帝京科学大学大学院 理工学研究科

## 学生募集要項

—— 博士前期課程（修士課程） ——

—— 博士後期課程 ——

# 目 次

建学の精神	2
入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）	2
募集人員	3
出願資格	3、4
出願期間、試験日、合格発表日	4
出願手続	4、5、6
選考方法	6、7
合格発表	7
入学手続	7
入学辞退手続	8
令和2年度入学金及び授業料等	8
帝京科学大学大学院概要	9、10、11
研究分野・授業科目及び担当教員	12、13、14
領域別教員及びその研究内容	15、16
志願票記入上の注意	17
試験場案内図	18
《巻末》	
・ 志望理由書	
・ 修士学位論文要旨・研究経過報告書	
・ 研究業績調書	
・ 研究計画書	
・ 推薦〔特別進学（飛び入学）用〕	

## 個人情報の取扱いについて

出願においてお知らせいただいた個人情報（氏名、住所等）は入学案内、入学試験に付随する業務及び統計的集計を行うために利用します。

この業務の一部は、本学から当該業務の一部を委託した業者（以下「受託業者」という。）にて行うことがあります。

業務委託に当たり、個人情報の保護に関する契約を締結した受託業者に、お知らせいただいた個人情報の全部又は一部を提供することはありますが、帝京科学大学が明示する用途のみの利用であり、その受託業務を超えた利用はありません。

## 受験及び修学上の特別配慮について

身体機能の障がいや疾病・疾患等により、受験及び修学上特別な配慮を必要とする場合は、遅くとも出願を希望する募集区分の出願開始日の1か月前までに、帝京科学大学入試係までお問い合わせください。本学の対応が決定後に、出願していただきます。

なお、要望等に対応できない場合もありますので、あらかじめご了承ください。

また、不慮の事故等により、出願後に特別な配慮が必要となった場合も速やかにご連絡ください。

帝京科学大学 入試係 03-6910-3706(直通)

## 建学の精神

人類の将来を正しく見据え、生命の尊厳を深く学び、自然と人間の共生に貢献できる人材を育成し、持続可能な社会の発展に寄与する。

## 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

### 博士前期課程（修士課程）

#### ■ バイオサイエンス専攻

生命科学の諸分野の基礎的領域とその応用分野である生物工学分野、医療科学分野を含む幅広い領域の発展に寄与し得る研究者・技術者・教育者・医療技術者を育成することを目標としています。この目標に合った学生を受け入れるために、微生物科学、動物科学、植物科学、分子生物学、生物化学、化学、医療科学等の各分野の基礎知識あるいはこれらの総合的知識を身につけている学生を選考します。また、技術的側面のみならず社会的、人間的側面からも生物試料を扱うために、学部卒業生としてきちんとした倫理観を備えていることも求められます。

#### ■ アニマルサイエンス専攻

人間と飼育動物との良好な関係の構築、野生動物の衛生、環境エンリッチメント、生態、保全など、人間と動物との共生に関する教育・研究を通して動物関連の科学や産業の発展に寄与し得る研究者・技術者を育成することを目標としています。この目標に合った学生を受け入れるために、動物看護福祉科学、動物基礎科学、人間動物関係科学のいずれかの分野の基本的知識を身につけている学生を選考します。また、技術的側面のみならず社会的、人間的側面からもアニマルサイエンスを扱うために、学部卒業生としてのきちんとした倫理観を備えていることも求められます。

#### ■ 環境マテリアル専攻

生物と環境との関わり、環境を分析し自然と共存していくための科学、環境負荷の少ないすなわち環境に優しい物質の創製など、環境に関する教育・研究を通して、環境関連の科学や工学の発展に寄与する研究者・技術者の育成を目標としています。この目標に沿って、環境科学、環境機能材料、自然環境科学の各分野の基礎知識を身につけている学生を選考します。これら学生には、環境マテリアル専攻の大学院生にふさわしく、学識的側面のみならず社会的、人間的側面からも正しい倫理観を備えていることが求められます。

### 博士後期課程

#### ■ 先端科学技術専攻

高度な専門性を有するだけでなく、創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者・技術者及び高度な教育・研究能力を兼ね備えた大学教員の養成を目的とした専攻です。これらの目的を達成するため、原則として優秀な成績で修士課程を修了した者（修了予定者を含む。）又はこれらの者と同等以上の学力を有する者を選考します。

## 1 募集人員

博士前期課程（修士課程）	博士後期課程
バイオサイエンス専攻 15名 アニマルサイエンス専攻 15名 環境マテリアル専攻 15名	先端科学技術専攻 8名

※ 募集人員の一部については、本学卒業予定者等から別途選考することがあります。

## 2 出願資格

### (1) 博士前期課程（修士課程）

次の各号のいずれかに該当する者

ア 学校教育法に定める大学を卒業した者及び令和2年3月末日までに卒業見込みの者

イ 大学改革支援・学位授与機構により学士の学位を授与された者及び令和2年3月末日までに授与される見込みの者

ウ 外国において学校教育における16年の課程を修了した者及び令和2年3月末日までに修了見込みの者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者

エ 外国の学校が行う通信教育における授業科目を日本国内において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者及び令和2年3月末日までに修了見込みの者

オ 日本国内において、外国の大学相当として文部科学大臣が指定した外国の学校の課程（文部科学大臣指定外国大学日本校）を修了した者及び令和2年3月末日までに修了見込みの者

※ 文部科学省ホームページの「文部科学大臣指定外国大学日本校」をご参照ください。

カ 文部科学大臣の指定した専修学校の専門課程（文部科学大臣指定専修学校専門課程）を文部科学大臣が定める日以後に修了した者及び令和2年3月末日までに修了見込みの者

※ 文部科学省ホームページの「文部科学大臣指定専修学校専門課程一覧」をご参照ください。

キ 文部科学大臣の指定した者

ク 学校教育法の規定により他の大学の大学院に入学した者であって、本学大学院において、その教育を受けるにふさわしい学力があると認められた者

ケ 本学大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた22歳以上の者

### (2) 博士後期課程

次の各号のいずれかに該当する者

ア 修士の学位又は専門職学位を有する者及び令和2年3月末日までに取得見込みの者

イ 外国において修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び令和2年3月末日までに授与される見込みの者

ウ 外国の学校が行う通信教育における授業科目を日本国内において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び令和2年3月末日までに授与される見込みの者

エ 日本国内において、外国の大学院相当として文部科学大臣が指定した外国の学校の課程（文部科学大臣指定外国大学（大学院相当）日本校）を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び令和2年3月末日までに授与される見込みの者

※ 文部科学省ホームページの「文部科学大臣指定外国大学（大学院相当）日本校」をご参照ください。

オ 文部科学大臣の指定した者

カ 本学大学院において、個別の入学資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認められた24歳以上の者

(3) 出願資格の注意事項

- ア 出願に際しては、出願資格に関わらず研究指導を希望する教員との事前相談が必要です。
- イ 出願資格のうち、博士前期課程（修士課程）ク又はケ、博士後期課程カによって出願しようとする者は、教員との事前相談後に「個別の入学資格審査」を行い、認められた者のみが出願できます。入試・広報課入試係に連絡の上、以下の期間内に必要書類を提出してください。
- (ア) 入学資格審査書類申請期間（締切日必着）  
 第1次：令和元年7月1日（月）～令和元年7月19日（金）  
 第2次：令和元年12月23日（火）～令和2年1月17日（金）
- (イ) 提出書類  
 ・入学資格審査申請書（本研究科所定の用紙を使用）  
 ・その他本学が審査に必要として指定した書類
- (ウ) 入学資格審査のための書類の提出先・問合せ先  
 帝京科学大学 千住キャンパス 入試・広報課入試係 TEL：03-6910-3706（直通）  
 受付時間：月曜～金曜9時～17時、土曜9時～12時  
 ※ 日曜、祝日及び年末年始〔12月30日（月）～1月3日（金）〕は事務取扱いはしません。
- ウ 社会人又は外国人留学生が出願しようとする場合は、上記(ア)の期間内に入試・広報課入試係へ連絡してください。

3 出願期間、試験日、合格発表日（試験場はP19を参照してください。）

募集区分	博士前期課程（修士課程）及び博士後期課程		
	出 願 期 間	試 験 日	合 格 発 表 日
I 期	令和元年9月2日（月） ～9月6日（金）	令和元年9月12日（木）	令和元年9月19日（木）
II 期	令和2年2月17日（月） ～2月21日（金）	令和2年2月28日（金）	令和2年3月5日（木）

4 出願手続

(1) 出願書類

ア 博士前期課程（修士課程）

(ア) 志願票 (本学所定用紙)	3 cm×3 cmのカラー写真(出願前3か月以内に撮影した正面上半身、無帽、無背景のもの)を所定欄に貼付してください。なお、写真の裏面には、志望専攻名及び氏名を明記してください。
(イ) 卒業(見込)証明書	最終学歴の学長等が作成し、厳封したもの。 ※ 外国の大学・大学院を卒業(修了)した者は、学位取得証明書も併せて提出してください。
(ウ) 成績証明書	
(エ) 学位授与取得証明書	出願資格イに該当する場合。 ※ 授与される見込みの者については、授与後速やかに提出すること。
(オ) 志望理由書 (本学所定用紙)	志望の理由及び将来の研究に対する希望について200字程度にまとめたもの
(カ) 受験承諾書 (様式随意)	官公庁、学校、企業等の在職者であり、入学後も在職する予定である場合には、所属長の受験承諾書を添付してください。
(キ) 住民票の写し (外国籍の方のみ)	日本国内に在留している外国籍の方は、市区町村で発行された住民票の写し(在留資格・在留期間・在留期間の満了の日等が記載されたもの)を提出してください。

イ 博士後期課程

(ア) 志願票 (本学所定用紙)	3 cm×3 cmのカラー写真(出願前3か月以内に撮影した正面上半身、無帽、無背景のもの)を所定欄に貼付してください。なお、写真の裏面には、志望専攻名及び氏名を明記してください。
(イ) 卒業証明書及び 修了(見込)証明書	出身大学及び大学院の学長等が作成し、厳封したもの。 ※ 外国の大学・大学院を卒業(修了)した者は、学位取得証明書も併せて提出してください。
(ウ) 成績証明書	① 出願資格アにより出願する者 学部及び大学院修士課程の成績証明書 ② 出願資格イ、ウ、エにより出願する者 当該教育課程の成績証明書 ③ 出願資格オ、カにより出願する者 学部の成績証明書 ※ 上記①、②、③は、出身大学長等が作成し、厳封したもの
(エ) 学位授与取得証明書	出願資格イに該当する場合。 ※ 授与される見込みの者については、授与後速やかに提出すること。
(オ) 志望理由書 (本学所定用紙)	志望の理由及び将来の研究に対する希望について200字程度にまとめたもの
(カ) 修士の学位論文及び 修士学位論文要旨	① 修士の学位論文を提出した者は、学位論文の写し及び修士学位論文要旨(本学所定用紙)を提出してください。 ② 令和2年3月に修士課程修了見込みの者は、修士学位論文要旨(本学所定用紙)を提出してください。 ※ 上記に加えて公表論文・研究業績がある場合は、論文等の写し及び研究業績調書(本学所定用紙)を提出してください。
(キ) 研究経過報告書 (本学所定用紙)	上記(カ)以外の者は、研究経過報告書(本学所定用紙)を提出してください。
(ク) 研究計画書 (本学所定用紙)	400字程度にまとめたもの
(ケ) 受験承諾書 (様式随意)	官公庁、学校、企業等の在職者であり、入学後も在職する予定である場合には、所属長の受験承諾書を添付してください。
(コ) 住民票の写し (外国籍の方のみ)	日本国内に在留している外国籍の方は、市区町村で発行された住民票の写し(在留資格・在留期間・在留期間の満了の日等が記載されたもの)を提出してください。

ウ 注意事項

- ① 証明書の氏名が出願時と異なる場合(旧姓等)、戸籍抄本(戸籍個人事項証明書)を添付してください。
- ② 外国語で作成されている書類について、公的機関や民間の翻訳会社等の発行する日本語の翻訳(原本)を必ず添付してください。「外国語で作成されている書類」と「日本語の翻訳」の2つが揃っていない場合は、出願を受け付けません。
- ③ 研究指導教員との事前相談  
志望分野・領域を選定後、必ず出願前に指導を希望する教員と事前相談を行ってください。  
帝京科学大学 入試係 03-6910-3706(直通)

(2) 入学検定料 33,000円

志願票の振込依頼書を使用し、最寄りの金融機関の窓口から振り込んでください。  
なお、ATMや電話・インターネット等の通信による支払いはできません。

### (3) 出願方法

#### ア 郵便による出願（出願期間内必着）

提出書類を一括して「大学院出願書類在中」の封筒に入れ、簡易書留速達郵便で送付してください。

#### イ 直接来学しての出願（願書受付期間・受付時間等にご注意ください。）

提出書類を一括して「大学院出願書類在中」の封筒に入れて提出してください。

- ・ 願書提出場所：千住キャンパス本館4階入試センター
- ・ 窓口受付時間：月曜～金曜 9時～17時、土曜 9時～12時  
※ 日曜、祝日及び願書受付期間以外の事務取扱いはしません。

### (4) 注意事項

#### ア 出願後の記入内容の変更は認めません。

#### イ 提出した出願書類及び入学検定料は、一切返還しません。

## 5 選考方法

### (1) 一般選考

#### ア 博士前期課程（修士課程）

学力試験、面接試験及び書類審査（成績証明書、志望理由書等）を行い、総合的に合否を決定します。

##### (ア) 学力試験

次の科目について、大学学部卒業程度で出題します。

- ① 一般科目：英語（大学から辞書を貸与します。）
- ② 専門科目：各専攻において共通の基礎的科目及び志望する研究分野に応じた出題をします。

##### (イ) 面接試験

各専攻において志望する研究分野を中心に、15分程度の面接試験を行います。

##### (ウ) 試験時間割

時 間	試 験 内 容
9:30	集 合
9:45～10:00	受験上の注意
10:00～11:00	一 般 科 目
11:10～12:40	専 門 科 目
13:30～	面 接

#### イ 博士後期課程

学力試験、口述試験・面接試験及び書類審査（成績証明書、志望理由書等）を行い、総合的に合否を決定します。ただし、本学において、令和2年3月に博士前期課程（修士課程）を修了見込みの者には、学力試験を免除します。

##### (ア) 学力試験

英語（大学から辞書を貸与します。）

##### (イ) 口述試験・面接試験

修士学位論文又は研究経過報告書及び研究計画書等について行います。

##### (ウ) 試験時間割

時 間	試 験 内 容
9:30	集 合
9:45～10:00	受験上の注意
10:00～11:00	英 語
13:30～	口述試験・面接

## (2) 社会人及び外国人留学生の選考

### ア 博士前期課程（修士課程）

出願資格の各号のいずれかに該当する社会人（各種の研究機関、教育機関又は企業等に1年以上勤務する者で、入学後も引き続きその身分を有し、勤務成績が優秀であり、所属長の承諾を受けた者）及び外国人留学生（日本国籍を有しないで、在留資格が「留学」である者）の選考は、面接試験及び書類審査（成績証明書、志望理由書等）を行い、総合的に合否を決定します。

#### (ア) 面接試験

各専攻において志望する研究分野を中心に面接試験を行います。

#### (イ) 試験時間割

時 間	試 験 内 容
13:00	集 合
13:20～13:30	受験上の注意
13:30～	面 接

### イ 博士後期課程

出願資格の各号のいずれかに該当する社会人（各種の研究機関、教育機関又は企業等に2年以上勤務する技術者又は研究者で、入学後も引き続きその身分を有し、勤務成績が優秀であり、所属長の承諾を受けた者）及び外国人留学生（日本国籍を有しないで、在留資格が「留学」である者）の選考は、面接試験及び書類審査（成績証明書、志望理由書等）を行い、総合的に合否を決定します。

#### (ア) 面接試験

志望する研究領域のほか、提出された研究計画書等について面接試験を行います。

#### (イ) 試験時間割

時 間	試 験 内 容
13:00	集 合
13:20～13:30	受験上の注意
13:30～	面 接

(注) 募集人員の一部（外国人留学生）については、日本国外で入学試験を実施し、別途選考することがあります。

## 6 合格発表

- 合格発表日に、受験者全員に受験票を送付した宛先・志願者本人宛で、選考結果を郵便にて通知します（学内掲示による発表は行いません。）。
- 合格者には合格発表日に、入学手続書類等を郵便で発送します。

(注) 窓口、電話、郵送等による合否結果の照会に関する問合せには一切応じません。

## 7 入学手続

### (1) 手続方法

#### ア 入学金及び授業料等の納入

本学指定の振込依頼書により、指定期日までに納入してください。

#### イ 書類提出〔誓約書、卒業（修了）証明書〕

※ 書類提出の詳細については、合格者へ送付する入学手続要項において指示します。

### (2) 手続期限

募集区分	博士前期課程（修士課程）及び博士後期課程
	学費納入期日及び書類提出期日
I 期	令和元年9月27日（金）
II 期	令和2年3月12日（木）

入学金及び授業料等の納入期日までに手続を完了しない場合は、入学の意志がないものとみなし、入学許可を取り消します。詳細については、合格者へ送付する入学手続要項において指示します。

なお、I期の合格者に限り、入学金及び授業料等の分割納入が可能です。合格発表日から指定期日までに入学金を納入し、令和2年2月13日（木）までに残額を納入することもできます。



## 8 入学辞退手続

入学手続を完了した者で、入学を辞退する者は、令和2年3月31日(火)17時までに以下へ電話連絡し、入学辞退を申し出てください。その時点をもって入学辞退が確定します。後日、本学から送付する「入学辞退届」に必要事項を記入し、「入学許可書」とともに返送してください。返送された書類を確認した上で、入学金を除く金額を返還します。

なお、上記期日を過ぎての入学辞退申出については、納入金を返還しません。

### 【入学辞退の連絡先】

帝京科学大学 千住キャンパス 入試・広報課入試係

TEL：03-6910-3706 (直通)

受付時間：月曜～金曜 9時～17時、土曜 9時～12時

※ 日曜、祝日及び年末年始〔12月30日(月)～1月3日(金)〕は事務取扱いはしません。

## 9 令和2年度入学金及び授業料等

### 博士前期課程(修士課程)

(単位：円)

区 分	学外出身者		学内出身者		備 考
	入学手続時	年 額	入学手続時	年 額	
入 学 金	310,000	310,000	210,000	210,000	入学時のみ
授 業 料	400,000	800,000	400,000	800,000	
実 験 実 習 費	85,000	170,000	85,000	170,000	
施 設 設 備 費	120,000	240,000	120,000	240,000	
学 生 傷 害 保 険 料 (アニマルサイエンス専攻のみ)	2,430 (4,060)	2,430 (4,060)	2,430 (4,060)	2,430 (4,060)	入学時のみ
合 計 (アニマルサイエンス専攻のみ)	917,430 (919,060)	1,522,430 (1,524,060)	817,430 (819,060)	1,422,430 (1,424,060)	

### 博士後期課程

(単位：円)

区 分	学外出身者		学内出身者		備 考
	入学手続時	年 額	入学手続時	年 額	
入 学 金	310,000	310,000	免 除	免 除	入学時のみ
授 業 料	400,000	800,000	400,000	800,000	
実 験 実 習 費	85,000	170,000	85,000	170,000	
施 設 設 備 費	120,000	240,000	120,000	240,000	
学 生 傷 害 保 険 料 (アニマルサイエンス領域のみ)	3,620 (5,900)	3,620 (5,900)	3,620 (5,900)	3,620 (5,900)	入学時のみ
合 計 (アニマルサイエンス領域のみ)	918,620 (920,900)	1,523,620 (1,525,900)	608,620 (610,900)	1,213,620 (1,215,900)	

※学生傷害保険料は、変更となる場合があります。

# 帝京科学大学大学院概要

本学大学院理工学研究科は、学部教育の基礎の上になって、科学・技術の教育研究を通して広く人類の福祉に貢献することを目的とします。

## 1 設置の趣旨と教育課程

本学は、平成2年に開学し、平成6年3月に第1回の卒業生を社会に送り出しましたが、本学の教育・研究の中核である先端科学・技術の諸分野は、その発展が著しく、より高度の教育・研究は、大学院を設置して行わざるを得ず、平成6年4月に学部組織の上に、さらに大学院理工学研究科の修士課程を設置しました。大学院博士後期課程においては、さらに広い視野と実践的特色を持った、高度の先端科学・技術の専門技術者及び研究者の養成を目的とします。そのためには、それぞれの分野の研究を、より一層深化させる必要がありますが、さらにそれ以上に、今後の先端科学・技術の新しい内容の発展が、それら諸分野の学際的、融合的研究・開発に期待されているという点に着目し、その方向に教育・研究を推進するために、修士課程の専攻を博士後期課程では一本化し、「先端科学技術専攻」としました。

そこで修士課程を前期2年の博士前期課程とし、新たに博士後期3年の課程を持つ区分制の博士課程を平成8年4月に設置しました。

なお、平成25年4月から中学校教諭専修免許状（理科）及び高等学校教諭専修免許状（理科）を取得できる課程を設置しています。

研究科	博士課程	
	前期課程（2年） （修士課程）	後期課程（3年）
理工学研究科	バイオサイエンス専攻 アニマルサイエンス専攻 環境マテリアル専攻	先端科学技術専攻

## 理工学研究科の組織

### 大学院博士前期課程（修士課程）

#### バイオサイエンス専攻

生 物 工 学  
生 体 機 能 学  
生 物 有 機 化 学  
医 療 科 学

#### アニマルサイエンス専攻

動 物 看 護 福 祉 科 学  
動 物 基 礎 科 学  
人 間 動 物 関 係 科 学

#### 環境マテリアル専攻

環 境 科 学  
環 境 機 能 材 料  
自 然 環 境

### 大学院博士後期課程

#### 先端科学技術専攻

（バイオサイエンス領域）

生 物 科 学  
生 物 工 学  
医 療 科 学

（アニマルサイエンス領域）

動 物 科 学  
人 間 動 物 関 係 学

（環境マテリアル領域）

環 境 科 学  
エ コ マ テ リ ア ル

### (1) 博士前期課程（修士課程）

- ① バイオサイエンス専攻では、生物科学の諸分野の基礎的領域とその応用分野である生物工学分野、医療科学分野を含む幅広い領域で柔軟に教育を行い、バイオサイエンスの基礎的素養と応用技術を持った人材の育成ができるよう教育課程を編成しています。
- ② アニマルサイエンス専攻では、人間と飼育動物との良好な関係の構築、野生動物の衛生、環境エンリッチメント、生態、保全など、人間と動物との共生に関する教育・研究を通して、動物関連の科学や産業の発展に寄与し得る研究者・技術者の育成ができるよう教育課程を編成しています。
- ③ 環境マテリアル専攻では、生物と環境との関わり、環境を分析し自然と共存していくための科学、環境負荷の少ないすなわち環境に優しい物質の創製など、環境に関する教育・研究を通して、環境関連の科学や工学の発展に寄与する研究者・技術者を育成するための教育課程を編成しています。

### (2) 博士後期課程

先端科学技術専攻は、次の3領域で構成されます。

- ① バイオサイエンス領域では、細胞増殖、代謝、遺伝子発現などの高次の生命現象を解明し、その優れた機能を利用したこれからの新しい先端科学技術を研究・開発し、それを医療、材料、情報、環境などの諸分野に応用を可能にする幅広い高度な能力を有する研究者・技術者の育成ができるよう教育課程を編成しています。
- ② アニマルサイエンス領域では、飼育動物と野生動物の行動・健康・生態・保全及び人間生活への動物介在に関する先端的な教育・研究を通じて、次世代における人間と動物との共生に貢献できる高度な研究者・技術者育成のための教育課程を編成しています。
- ③ 環境マテリアル領域では、自然環境の科学、環境を分析する科学をはじめ、環境調和型物質の開発と環境負荷の少ない物質創製プロセスの開発を次世代の先端科学として捉え、これらの教育・研究を通して、持続可能な未来社会の構築に寄与し得る研究者・技術者を育成するための教育課程を編成しています。

## 2 履修及び研究指導

### (1) 博士前期課程（修士課程）

- ① 専攻により若干の相違がありますが、各専攻の専門分野に対応した多くの授業科目を準備し、必修科目である輪講及び特別実験の他に、修了に必要な30単位のうち約1/2を講義科目で修得させ、それぞれの専門分野に関係した授業を、余裕を持って選択し得るよう工夫しています。
- ② 各専攻に共通して、輪講が第一から第四まで置かれていますが、これは各指導教員が単独又は共同して、文献の講読指導を行うものであり、各専門分野に関係した研究雑誌の論文等を中心に討議を行うことにより、学生の研究能力を高めることを目的とします。
- ③ 各専攻に共通して、特別実験が第一、第二と置かれていますが、これは、学内の実験設備を用いた実験もありますが、テーマによっては、関連の他大学・研究機関や企業等において学生が行う実験・研究も積極的に取り入れます。

## (2) 博士後期課程

- ① 各分野の講義授業科目は全て選択で2単位です。研究指導教員の指導のもとで、特別輪講4単位、特別実験8単位を含め、各領域に用意されている授業科目2科目(4単位)以上、合計16単位以上を修得します。
- ② 指導教員については、各専門分野の主たる指導教員のほかに、指導教員との相談の上、関連領域・部門から副指導教員を選び、研究上の指導・助言を得ることにし、将来の各領域・部門の研究内容が、学際的視野により新しい創造的内容を生む可能性を持たせています。
- ③ 博士後期課程では、上記授業科目の履修は研究活動と不可分離のものです。学生は主指導教員の責任ある指導を受けると同時に、副指導教員からも助言を受け、各自の研究を進めます。その研究の進行に伴い、その成果を中間で取りまとめる努力をさせ、それぞれの関係専門領域の学会に発表し、学会誌に掲載し得るよう努力させます。その結果3年次中頃までには、2篇以上の研究発表論文が投稿され受理されているよう指導します。

## 3 大学院研究センター

本学では、文部科学省の「私立大学学術研究高度化推進事業」(ハイテク・リサーチ・センター整備事業)の拠点のひとつとして選定され、バイオテクノロジー研究センターと未来材料研究センターをそれぞれ開設しました。

### (1) バイオテクノロジー研究センター

平成12年春に開設以来、バイオテクノロジー研究センターは「遺伝子」をターゲットにした基礎研究中心の第1期につづき、分子、細胞、生物個体の3レベルで「バイオホメオスタシス」の研究を行った第2期のプロジェクトを平成20年3月に終了しました。現在は、その設備を利用して生命系に関わる先端研究・開発のための拠点としての役割を担っています。

### (2) 未来材料研究センター

未来材料研究センターは、「環境適合未来材料及びシステムの構築と構造解析」、「生体分子・粒子を制御する活性を通じて人間環境を改善する高分子生化学材料の合成」のプロジェクトを終了しています。現在は、その設備を利用して未来材料に関わる研究・開発のための拠点としての役割を担っています。

# 研究分野・授業科目及び担当教員

## 博士前期課程（修士課程）

### バイオサイエンス専攻

授業科目については、令和2年度開講予定科目を記載しています。

分 野	授 業 科 目	担 当 教 員
生 物 工 学	バイオプロセス工学特論Ⅰ	教授 松岡 浩
	バイオプロセス工学特論Ⅱ	教授 松岡 浩
	食品科学特論Ⅰ	未定
	食品科学特論Ⅱ	未定
	分子生物学特論Ⅰ	准教授 柴田安司
	分子生物学特論Ⅱ	准教授 柴田安司
	微生物学特論	准教授 上野良平
	製剤学特論	教授 佐野友彦
生 体 機 能 学	生体反応特論	教授 河原井昌裕
	植物組織培養学特論Ⅰ	教授 東克己
	植物組織培養学特論Ⅱ	教授 東克己
生 物 有 機 化 学	生物有機化学特論Ⅰ	教授 山口十四文
	生物有機化学特論Ⅱ	教授 山口十四文
	遺伝子化学特論Ⅰ	教授 岩瀬礼子
	遺伝子化学特論Ⅱ	教授 岩瀬礼子
医 療 科 学	神経科学特論	教授 萩原宏毅
	リハビリテーション科学特論	教授 昇 寛
	共生ロボット工学特論	教授 永沼 充
	生体材料工学特論	准教授 堀 和芳
	生体信号処理特論	教授 内田恭敬
	医療情報処理特論	教授 斉藤幸喜
共 通	バイオサイエンス輪講第一	各 教 員
	バイオサイエンス輪講第二	
	バイオサイエンス輪講第三	
	バイオサイエンス輪講第四	
	バイオサイエンス特別実験第一	
	バイオサイエンス特別実験第二	

\* 担当教員については、退職等により変更になる場合があります。

## アニマルサイエンス専攻

授業科目については、令和2年度開講予定科目を記載しています。

分野	授業科目	担当教員
動物看護福祉科学	代謝生理学特論	教授 大辻一也
	動物看護学特論	准教授 中田真琴
	動物福祉特論	准教授 加隈良枝
	動物保健衛生学特論	准教授 彦野弘一
	臨床動物行動学特論	准教授 加隈良枝
動物基礎科学	動物行動生理学特論	講師 今野晃嗣
	動物行動神経科学特論	教授 近藤保彦
	動物行動学特論	教授 藪田慎司
	動物行動生態学	教授 森 貴久
	陸生哺乳類学特論	准教授 島田将喜
	水生哺乳類学特論	教授 森 恭一
	社会行動と生物学	教授 藪田慎司
	動物基礎科学特殊講義	未定
人間動物関係科学	環境教育特論	教授 古瀬浩史
	動物園動物学	教授 並木美砂子
	動物介在介入Ⅰ	教授 花園 誠 講師 山本真理子
	動物介在介入Ⅱ	准教授 木場有紀 准教授 木濱野佐代子
	動物介在人間工学特論	教授 小川家資
	共生文化論	教授 井腰圭介
共通	動物科学特論一	各 教 員
	動物科学特論二	
	アニマルサイエンス輪講第一	
	アニマルサイエンス輪講第二	
	アニマルサイエンス輪講第三	
	アニマルサイエンス輪講第四	
	アニマルサイエンス特別実験第一	
	アニマルサイエンス特別実験第二	

\* 担当教員については、退職等により変更になる場合があります。

# 環境マテリアル専攻

授業科目については、令和2年度開講予定科目を記載しています。

分野	授業科目	担当教員
環境科学	環境物理化学特論	教授 仲山英之
	環境有機化学特論	教授 釘田強志
	環境無機化学特論	講師 山際清史
	環境分析学特論	准教授 和田龍一
	大気環境学特論	准教授 和田龍一
環境機能材料	分光学特論	教授 仲山英之
	機能性分子特論	教授 釘田強志
	クリーンエネルギー特論	講師 山際清史
自然環境	環境共生学特論	教授 岩瀬剛二
	生物間相互作用学特論	教授 岩瀬剛二
	植物環境生理学特論	教授 渡邊浩一郎
	植物代謝機能学特論	教授 渡邊浩一郎
	環境野生動物学特論	准教授 篠原正典
	保全遺伝学特論	准教授 篠原正典
	物質循環生態学特論	教授 橋本慎治
	水圏環境生態学特論	教授 橋本慎治
	環境生態学特論	准教授 下岡ゆき子
	人類学特論	准教授 下岡ゆき子
共通	環境マテリアル輪講第一	各教員
	環境マテリアル輪講第二	
	環境マテリアル輪講第三	
	環境マテリアル輪講第四	
	環境マテリアル特別実験第一	
	環境マテリアル特別実験第二	

\* 担当教員については、退職等により変更になる場合があります。

# 領域別教員及びその研究内容

## 博士後期課程 先端科学技術専攻

領域	部 門	教 員	研 究 内 容
バ イ オ サ イ エ ン ス	医 療 科 学	教 授 永 沼 充	人とロボットの相互作用に関する解析とネットワーク応用
		教 授 内 田 恭 敬	機械学習を用いた生体情報及び活動状況変化検知システムに関する研究
		教 授 斉 藤 幸 喜	ディープラーニングを用いた医療データの解析に関する研究
	生 物 科 学	教 授 山 口 十 四 文	真核細胞のDNA複製やテロメア合成に影響を及ぼすヌクレオシド・ヌクレオチドなどの有用な類縁化合物の設計と合成、それら類縁化合物の酵素や細胞レベルでの作用機構や応用に関する研究
		教 授 岩 瀬 礼 子	遺伝子発現を特異的に制御する核酸医薬を指向した、修飾オリゴヌクレオチドの合成とその機能性。遺伝子発現制御を光誘導する機能性修飾核酸の創出。遺伝子診断を指向した、蛍光修飾核酸の合成とその遺伝子検出機能
		教 授 東 克 己	植物生理学的、分子生物学的アプローチによる、植物の組織培養を経由した個体再生技術の研究と開発。植物の成長及び恒常性の維持に関する生体分子の検索及び機能解明
	生 物 工 学	教 授 松 岡 浩	代謝工学的手法を用いる細胞の代謝過程の最適化、廃棄物からのアルコール発酵生産、バイオリアクターの生産性向上
		教 授 佐 野 友 彦	化粧品、医薬品の分野で使用される皮膚外用剤の有効性やバイオアベイラビリティの向上を目指し、界面科学的、物理的手段によって有効成分の経皮吸収性を高める研究、及び経皮吸収メカニズムの解明
	ア ニ マ ル サ イ エ ン ス	動 物 科 学	教 授 大 辻 一 也
教 授 森 貴 久			動物の個体レベル以上で観察される生物学的な特徴について、行動学的・生態学的・進化学的な観点から解明する。
教 授 近 藤 保 彦			神経内分泌と嗅覚コミュニケーションとの関連から、動物の行動メカニズムを解明する。
教 授 藪 田 慎 司			動物の社会的相互交渉に用いられる行動を分析し、その機能、進化、原因メカニズム（動機付けや情動メカニズム）を解明する。

\* 教員については、退職等により変更になる場合があります。



領域	部 門	教 員	研 究 内 容
アニマルサイエンス	動物科学	教授 森 恭 一	水界や島嶼地域に生息する動物の生態解明と、資源学や保全学の観点からそれらの動物がおかれている現状や課題解決策を究明する。
		准教授 彦 野 弘 一	動物の感染症にかかわる微生物の病原性及び免疫応答を解明し、これらの基礎的知見に基づいて動物感染症の診断および予防法を開発する。
		准教授 島 田 将 喜	長期フィールドワークに基づき、野生動物のインタラクション、社会的ネットワークを明らかにし、その発達上、進化上の重要性を探索する。
	人間動物関係学	教授 小 川 家 資	医療・教育現場、職場における動物介在の効果をもとに人の生理・心理変化から解明する。また、治療的乗馬が身体障害者の身体機能へ及ぼす効果を明確化し、より効果的な治療的乗馬を追究する。
		教授 花 園 誠	動物福祉とその実践方法及び一次産業以外における動物活用法の研究。特に動物福祉を基盤とした動物介在システムの開発とその実用化に関する研究
		教授 並 木 美砂子	動物と人間との関係について歴史的文化的観点から振り返るとともに、これからの共存関係の構築について、広い視野から考える。
		准教授 加 隈 良 枝	動物福祉の行動学的・生理学的評価に基づく、動物の適正な飼育方法及び管理技術の探索
	環境マテリアル	環境科学	教授 小 杉 俊 男
教授 岩 瀬 剛 二			生態系保全及び地域資源保全を目指した植物と菌類の菌根共生現象の実態解明、マツタケ等食用菌根菌の人工栽培技術開発
教授 渡 邊 浩一郎			高等植物による環境汚染物質の吸収と移行の解明、ファイトレメディエーション利用可能植物種の探索と環境浄化への応用に関する研究
教授 橋 本 慎 治			水圏における食物連鎖を通じた炭素・窒素循環の解明、水質などの環境変化や気候変動に対する水生生物の応答に関する研究
准教授 篠 原 正 典			主に行動観察による野生動物の基礎生態に関する研究。また、それらを通じた人と動物の関係性に関する研究
エコマテリアル		教授 仲 山 英 之	超臨界流体の、環境負荷の少ない溶媒としての、利用分野の新規開拓と、そのことを目的とした溶媒特性の分子レベルでの研究
		教授 釘 田 強 志	新規触媒開発によるグリーンケミストリープロセスの確立、シリカメソ多孔体への有機分子触媒の固定化と高選択性固体触媒の開発

\* 教員については、退職等により変更になる場合があります。

# 志願票記入上の注意

- 1 全て黒のボールペンで記入してください。
- 2 ミシン線を切り離したり、指定の所以外を折り曲げたりしないでください。

## 大学院 令和2年度 帝京科学大学大学院理工学研究科 志願票 【A票】

※黒のボールペンで記入してください。

**志願者情報**  
この欄は必ず「受験者本人」が記入してください。

氏名 フリガナ  性別  男  女 受験No.

科 学 太 郎

生年月日(西暦)  年齢

出身大学・大学院  国立  公立  私立  大学  学部  大学院  専攻  専攻  専攻

卒業年又は卒業見込み年(西暦)

修了年又は修了見込み年(西暦)

※大学院入籍

**写真貼付欄**  
1 3か月以内に撮影した写真。  
2 写真の裏面に「受験者本人」の氏名を記載し、写真の裏面に貼付してください。

■写真の上に同封の保護シールを貼付してください。

**連絡先**

自宅電話番号

本人携帯電話番号

**受験票・合否通知送付先**  
※本学からの送付先を指定する際に必ず受験票番号(住所)を記入してください。

〒  (住所)

(受験者本人氏名)

●試験日及び博士前期課程(修士課程)又は博士後期課程より、志望する専攻・領域をマークしてください。

**博士前期課程(修士課程)**

試験日  特別選考 令和元年9月12日(木)

I期 令和元年9月12日(木)

II期 令和2年2月28日(金)

特別進学(飛び入学) 令和2年2月28日(金)

※特別進学、特別進学(飛び入学)は、本学卒業予定者を対象とした入学試験であるため、他大学の卒業予定者には応募することができません。

専攻  バイオサイエンス専攻  アニマルサイエンス専攻  環境マテリアル専攻

試験場 東京西キャンパス

■志望する課程の専攻又は領域にマークしてください。

**博士後期課程**

試験日  特別選考 令和元年9月12日(木)

I期 令和元年9月12日(木)

II期 令和2年2月28日(金)

※特別選考は、本学卒業予定者を対象とした入学試験であるため、他大学の卒業予定者等は受験することができません。

先攻  バイオサイエンス領域  アニマルサイエンス領域  環境マテリアル領域

試験場 東京西キャンパス

■出願に当たっては、あらかじめ本学に連絡の上、研究指導を希望する教員の確認を得てください。

裏面の記載事項も、必ず記入してください。

## 大学院 令和2年度 帝京科学大学大学院理工学研究科 志願票 【A票】

※黒のボールペンで記入してください。

**博士前期課程(修士課程)**  
卒業論文題目又は研究テーマ

出身学科名  学科長名

卒業研究指導教員名

**博士後期課程**  
修士論文題目又は研究テーマ

出身専攻名  専攻主任名

修士論文指導教員名

**在職者**  
勤務先名

職業  業種  職種

■「学科長及び卒業研究指導教員名」の記入欄に学科長と指導教員の署名、押印を得てください。

■「専攻主任及び修士論文指導教員名」の記入欄に専攻主任と指導教員の署名、押印を得てください。

■在職者のみ記入してください。

●履歴  
※学歴(高等学校入学以後を記入してください)

昭・平・令	年	月	
昭・平・令	年	月	
昭・平・令	年	月	
昭・平・令	年	月	
昭・平・令	年	月	
昭・平・令	年	月	

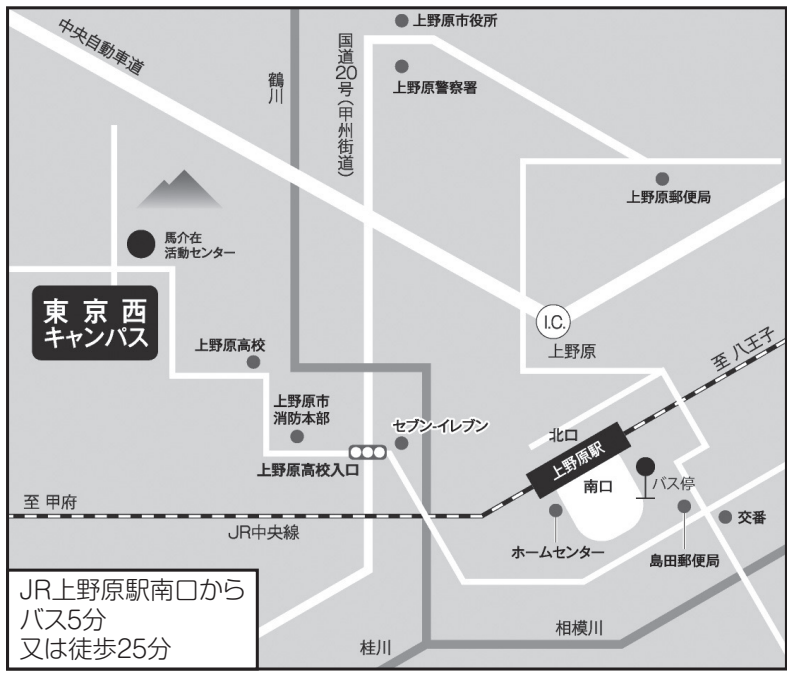
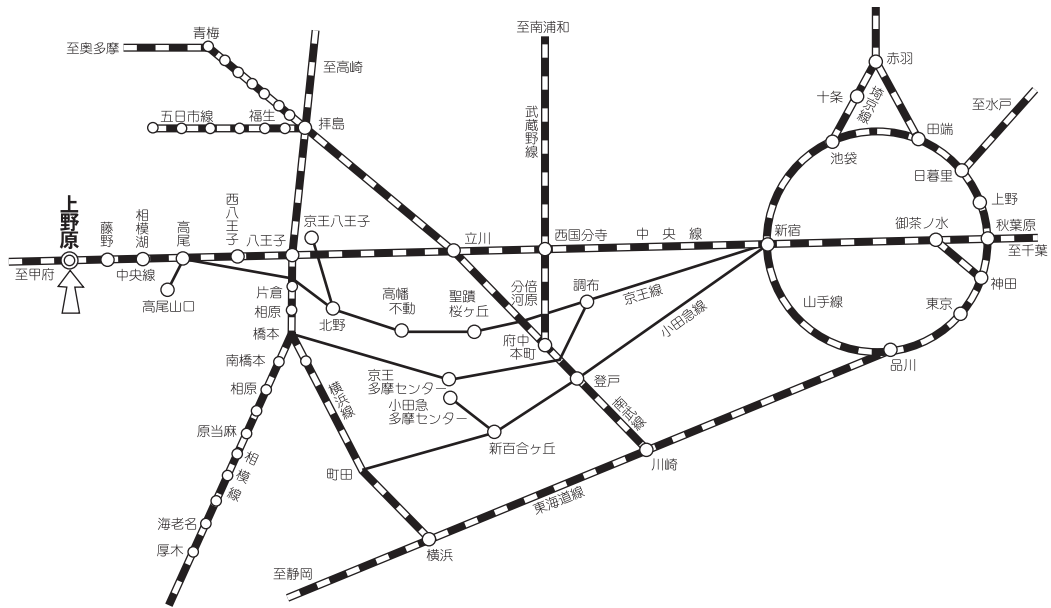
※職歴

昭・平・令	年	月	
昭・平・令	年	月	
昭・平・令	年	月	

# 試験場案内図

帝京科学大学 東京西キャンパス  
〒409-0193  
山梨県上野原市八ッ沢2525

## 試験場への交通案内図





# 志望理由書

(帝京科学大学 大学院理工学研究科)

No. \_\_\_\_\_

※受験番号

フリガナ	
氏名	
志望理由 (200字程度・横書き)	

キリトリ線

100

200

- ◎ 本様式に志望理由及び将来の研究に対する希望について200文字程度にまとめてください (パソコン等で入力したものを印刷して貼付する場合は、必ず枠内に収まるようにしてください)。
- ◎ 2枚以上になる場合には、本用紙をコピーして使用してください。
- ◎ ※印の欄には記入しないでください。



# 修士学位論文要旨・研究経過報告書

No. \_\_\_\_\_

(帝京科学大学 大学院理工学研究科)

※受験番号

志 望 領 域 名	フリガナ	
	氏 名	

(400字程度・横書き)

																				100
																				200
																				300
																				400

キリトリ線

- ◎ 400文字程度でまとめたものを作成してください（パソコン等で入力したものを印刷して貼付する場合は、必ず枠内に収まるようにしてください。）。
- ◎ 2枚以上になる場合には、本用紙をコピーして使用してください。
- ◎ ※印の欄には記入しないでください。





# 研究業績調書

No. \_\_\_\_\_

(帝京科学大学 大学院理工学研究科)

※受験番号

フリガナ	
氏名	
特許論文、 研究報告、 の 名称	
発行又は 発表の 年月	
発行所、 発表雑誌等 又は 発表学会等の 名称	
共同著者 又は 発表者 名は	
備考	

キリトリ線

- ◎ 学術論文等は、別刷又は写しを添付してください。
- ◎ 2枚以上になる場合には、本用紙をコピーして使用してください。
- ◎ ※印の欄には記入しないでください。



# 研究計画書

(帝京科学大学 大学院理工学研究科)

No. \_\_\_\_\_

※受験番号

志 望 領 域 名	フリガナ	
	氏 名	

(400字程度・横書き)

[Grid area for writing the research plan]																			
---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

キリトリ線

- ◎ 400文字程度でまとめたものを作成してください (パソコン等で入力したものを印刷して貼付する場合は、必ず枠内に収まるようにしてください)。
- ◎ 2枚以上になる場合には、本用紙をコピーして使用してください。
- ◎ ※印の欄には記入しないでください。



# 推薦書

(帝京科学大学 大学院理工学研究科)

※受験番号

フリガナ	
氏名	
所属学科	
学籍番号	
生年月日	昭和・平成          年          月          日 (          歳)

## 推薦理由


上記のとおり推薦いたします。

令和          年          月          日

推薦者（職名） \_\_\_\_\_

(氏名) \_\_\_\_\_ 印

キリトリ線

- ◎ 推薦者については、本人が所属する学科の学科長とします。
- ◎ ※印の欄には記入しないでください。





お問合せ先

**帝京科学大学**  
千住キャンパス 入試・広報課入試係

---

〒120-0045 東京都足立区千住桜木二丁目2番1号

TEL : 03-6910-3706 (直通)

FAX : 03-6910-3802

公式ウェブサイト : [www.ntu.ac.jp/](http://www.ntu.ac.jp/)